

第3章 情報社会における人間関係の醸成

1 学校における情報モラル等の効果的な指導の在り方

急速に普及しているインターネットは、様々な社会・文化・経済交流活動に利用されており、高度情報通信社会を支えるネットワークの一つとして期待されています。

しかし、長崎県佐世保における小学生による同級生殺害事件など、インターネットを介したコミュニケーションの在り方が社会的問題になっています。

このため、学校においては、インターネットを利用する際のモラルやマナーに関する指導において、児童生徒の発達段階を考慮した効果的な指導の充実が求められています。

情報社会 の光と影

(1) 情報社会がもたらす「光と影」

学校では、児童生徒が情報社会で安全で快適に生活するため、情報社会がもたらす「光と影」について理解させる必要があります。

児童生徒はインターネットを利用することで、世界中にある多種多様な情報を瞬時に検索、収集し、学習に対する興味・関心を広げ、自発的な学習の展開を図ることができます。その反面、インターネットを通じて発信した情報は、不特定多数の人に触れられることになり、プライバシーや人権に関わることで、インターネットを介して世界中に伝達され、予想し得ないトラブルに巻き込まれたりすることも考えられます。

そのため、情報社会においては、適正な活動を行うための基になる考え方や情報モラルに関する理解を十分に深めておく必要があります。

各学校段階 における 体験的 指導

(2) 各学校段階における情報モラルの指導の在り方

学校における情報モラルの指導は、学校内の組織や体制を充実させるとともに、指導内容を教育課程や指導計画に適切に位置付け、小・中・高等学校間で体系的に進めていくことが求められています。

高等学校段階

情報手段の活用を通して、主体的に学ぶ

- 情報社会に適切に参画する態度
- ガイドラインの遵守
- セキュリティへの配慮

中学校段階

コンピュータの利用を通して、実践的・体験的に学ぶ

- 適正な手続きによる情報の収集、発信
- 情報の信頼性についての意識
- 個人情報の保護
- 有害情報への対処

小学校段階

コンピュータに慣れ親しみながら体験的に学ぶ

- コミュニケーションの楽しさ
- コミュニケーションのマナーやルール
- 著作権の尊重

実践例

中学校の技術・家庭科の時間における、パソコン教室で「ほっかいどうスクールネット」の「チャット」機能を利用した情報モラルについての学習の事例

◎学習目標

- ・コミュニケーションを図る有効な道具として、チャットの適切な活用方法を理解する。
- ・チャットによるコミュニケーションの問題点について、体験的に理解する。
- ・情報化が社会や生活に及ぼす影響を知り、情報モラルの必要性について理解する。

◎学習の流れ

学習の流れ	学 習 活 動 の 内 容	留 意 事 項
①問題提示	・情報社会における特有の問題について考える。 (新聞などに掲載された身近な問題などを例にしながら考える。)	・情報の正確さや信頼性について認識させる。
②チャットを利用した体験活動 ・チャットによる交流 ・危険なチャットによる交流	・ほっかいどうスクールネットを活用した体験活動 ①ニックネームを使い、チャットによるリアルタイムの交流活動を行う。 URL https://teachlginw.hokkaido-c.ed.jp/ (一時的に利用するためのログインIDを北海道立教育研究所附属情報処理教育センターで用意) ②擬似的に用意された不正確な情報や不適切な情報を発信する。 ③会話が過激になることから、顔が見えないコミュニケーションで起こりやすい事柄を考える。	・情報の受け手を考慮した表現方法の工夫 ・相手の人数やTPOに応じたメッセージの交換 ・プライバシーの保護 ・人と人とのコミュニケーションの在り方
③話し合い	④チャットを利用する上での問題点とマナーについて考える。	
④まとめ	・資料「情報モラル」(図)を配布 ・チャットを利用する上での問題点とマナーについて理解する。 ・チャットを適切に活用する方法を理解する。	

右図の資料は、「ほっかいどうスクールネット」に掲載してあります。

資料「情報モラル」(図)

情報モラル(電子掲示板・チャット編)

- ・電子掲示板やチャットは、誰が見ているかわかりません。
- ・「どうせ！誰が書いたか、わからない」と考えるのは大きな間違いです。
- ・名誉毀損などの、責任を問われることもあります。



相手の気持ちを尊重する

- 他人を思いやる優しさ
- 言葉をよく選び、誤解や失礼のないように
- 親切でわかりやすい文章
- 相手を尊重し丁寧な言葉遣い
- 風字・脱字がないように
- 送信前によく読み直して



不快感や不信感を持たせない

- 他人を誹謗・中傷する言葉を使わない
- 差別的な言葉を使わない
- 悪口を書き込まない
- 非難な言葉を使わない
- 感情を悪くするような言葉を使わない
- 脅迫するような言葉を使わない



書き込みに責任を持つ

- 不確実な情報をもとに、事実であるかのように書き込まない
- 無意味な書き込みで、交流の場を妨害しない
- 書き込んだ内容に間違いがあるときは、すぐに訂正する



個人情報の取扱いに注意する

- 自分の氏名・住所・電話番号・メールアドレスなどを公開しない
- 他人の私生活や秘密などプライバシーに関することを書き込まない
- 他人に悪用されることもあるので、個人情報は慎重に公開する

北海道立教育研究所附属情報処理教育センター

実践のポイント

- ・コミュニケーションの楽しさ、大切さを重視し、「なぜしてはいけないか」、「どうすればよいか」など、考えさせる活動を取り入れる。
- ・コミュニケーションの基本は、「人と人との心のつながり」であることを実践的・体験的に学習させる。